| 群教セ | G08 - 03 |
| --- | --- |
| | 平19.239集 |

# 「利根沼田地域のビジネス」に関する指導資料集の作成

## ── 学校設定科目「地域ビジネス」での活用を目指して ──

長期研修Ⅱ研修員　　菅谷　富夫

**《研究の概要》**

本研究では、商業に関する学校設定科目「地域ビジネス」の「利根沼田地域のビジネス」に関する授業で活用できる指導資料集を作成した。指導資料として、指導する教師の共通理解を図るために、授業展開例、指導内容の解説を掲載した。また、指導に必要な提示用教材、配付資料、ワークシート、確認テストなどの資料や教材も盛り込んだ。そして、作成した本指導資料集を活用し、授業実践を通して、その有効性を検証した。

**キーワード**　**〔商業　ビジネス　高等学校　地域教材　指導資料集〕**

## Ⅰ　研究主題設定の理由

置籍校では、平成19年度入学生から、学科を今までの「商業科」「情報処理科」から「地域経済科」「国際経済科」「情報経済科」に改編した。

これに伴い、新たに「地域経済科」の２年次の必履修科目として、商業に関する学校設定科目「地域ビジネス」（３単位）を行うことにした。この科目は、平成20年度から実施するものであり、以下の単元で構成されている（図１）。

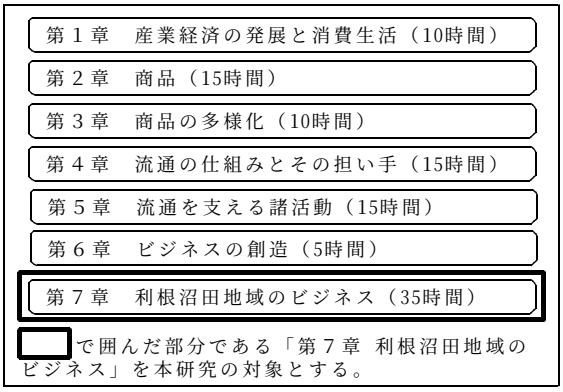



**図1　学校設定科目「地域ビジネス」の単元構成**

第１章から第６章までの指導目標は、「商品と流通に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる」ことである。また、「第７章　利根沼田地域のビジネス」の指導目標は、「利根沼田地域に関する理解を深め、利根沼田地域のビジネスの発展に寄与する基礎知識を身に付けさせる」ことである。

第１章から第６章までの指導内容は、既存の商業科目である「商品と流通」に準ずるため、授業展開例、指導資料、教材などは既存のものを活用できる。また、これまでの指導方法なども蓄積されている。

しかし、第７章の利根沼田地域のビジネスに関する単元は、新設で、しかも、利根沼田地域自体を３年次の「課題研究」の選択分野でしか扱ってこなかったため､生徒に指導する機会がほとんどなかった。また、指導する教師も利根沼田地域のビジネスについて、必ずしも熟知しているとは限らない。そのために､「第７章　利根沼田地域のビジネス」の授業を実施するに当たり、指導する教師の共通理解を図り､指導に必要な資料や教材を準備する必要がある。

そこで､「第７章　利根沼田地域のビジネス」の指導内容を明確にし、指導に必要な資料や教材をそなえた、授業で活用できる指導資料集を作成したいと考え、本研究主題を設定した。

## Ⅱ　研究のねらい

学校設定科目「地域ビジネス」の「第７章　利根沼田地域のビジネス」の授業で活用できる指導資料集を作成し、授業実践を通して、その有効性を明らかにする。

## Ⅲ　研究の内容･方法

### 1　基本的な考え方

#### (1)　指導する教師の共通理解を図る

「第７章　利根沼田地域のビジネス」を指導する

に当たって、指導する教師の共通理解を図るには、指導目標を達成するための指導内容を明確にし、指導する手順を示していくことが必要であると考えた。そこで、まず、生徒自身が、とかく身近であるがゆえ、見落としがちな地域の自然、ビジネスについてのよさ、強みを再認識・再発見し、次に、実際にビジネスの現場に触れ、経営者の考えや経験を知ることによって、今まで学んできた知識と現場での体験を結び付ける。それを踏まえて、地域の課題に気付き、地域を活かす手だてを考え、提案できるようにする。

このような指導を行うために、「第７章　利根沼田地域のビジネス」の指導内容について、図２のとおり「地域を知る」「地域に触れる」「地域を活かす」という三つの柱が必要であると考えた。

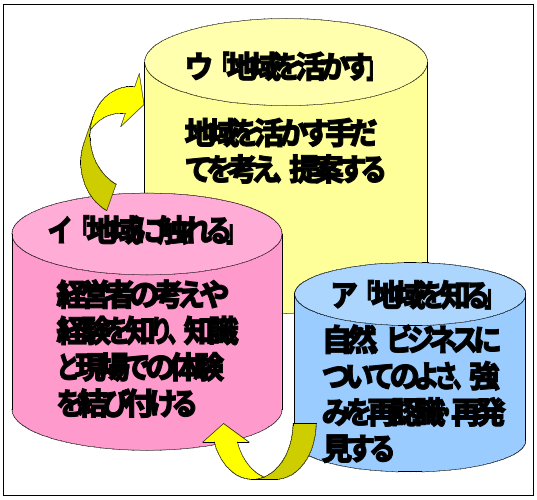



**図２　指導内容の三つの柱**

この三つの柱に沿って、指導する手順を考えて、35時間分の授業の流れや重要なポイントを示す授業展開例と指導内容の解説を作成する。

**ア　「地域を知る」**

利根沼田地域には大小様々な地域資源が存在している。それらを掘り起こし、磨いていけば、地域が活性化するものと考えられる。そこで、もう一度、自分たちの住んでいる地域を見直し、生徒が調べることにより、今まで気付かなかった地域のよさを発見できるようにする。

そのために、各市町村ごとの特色を調べ、利根沼田地域のＰＲを考えられるようにする。

このことによって、広く利根沼田地域を知るとともに、利根沼田地域は、山岳、高原、湖沼、渓谷などの豊かな自然環境や豊富な温泉、観光農園、スキー場などのレジャー施設があり、日本でも有数の観光地であることを再認識できる。

また、地域の自然そのものが観光客をもたらし、それに付随した関連施設などに経済効果を及ぼしていることを理解できるようにしたり、利根沼田地域のビジネスの現状や課題についても考えられるようにしたりする。

このような指導を通して、生徒は、地域の自然、ビジネスについてのよさ、強みを再認識・再発見することができると考える。

**イ　「地域に触れる」**

地域社会への理解を促進し、経営者の生き様や経営に対する思い（理念）に触れ、企業家精神を学ぶには、実際に地域のビジネスの現場を体験することが重要である。

そこで、単に、勤労観や職業観を身に付けるだけで終わることがないように、「地域を知る」の学習で、興味・関心をもった地域のビジネスや発見した課題などを踏まえて、目的を明確にして、事業所での体験に臨めるようにする。

そして、体験によって感じ取った経営者の生き様や「利根沼田を日本一の地域にしたい」「地域密着店であると同時に、グローバルに展開したい」といった経営に対する思い（理念）などを各自でまとめ、報告会で発表できるようにする。

このような指導を通して、生徒は、地域のビジネスの課題を解決する手がかりを見付けることができたり、いろいろな経営者のビジネスに対する考えや経験を知り、知識と現場での体験を結び付けたりすることができると考える。

**ウ　「地域を活かす」**

今まで学んできた知識や「地域に触れる」での体験などを通して、社会の動き・次代の予測・地域の強み、弱みを踏まえて、利根沼田地域のビジネスを活かす手だてを考えられるようにする。

そのために、利根沼田地域のビジネスの抱えている様々な課題を、どのように解決していけばよいか、高校生の目から見た提案を、学校外の人々に行い、評価してもらうことにより、それを社会的価値のあるものにする。

### (2)　指導に必要な資料や教材の作成

利根沼田地域のビジネスに関する学習は、これまで、３年次の「課題研究」の選択分野でしか扱ってこなかったため、指導に必要な資料や教材を準備する必要がある。そこで、指導内容ごとに、提示教材や配付資料、ワークシート、確認テストを作成する。

そのために、利根沼田地域にある市役所、町村役場、商工会、観光協会及び事業所などを訪問して、取材・収集した各市町村の総合計画や広報資料、統計資料、事業所の会社案内などを基に以下のような資料や教材を作成する。

**ア　提示用教材**

利根沼田地域の概要やビジネスについて指導する場面で、生徒の気付きや発見を促すために、地形の特色を表すような静止画や地域の方にビジネスについてインタビューをした動画、ビジネスの隆盛を示すグラフなどの提示教材を作成する。

**イ　配付資料**

利根沼田地域の現状を知るための観光名所を紹介したものや、利根沼田地域の課題について考えられるようにするために、観光客入込数の推移などを示した配付資料を作成する。

また、地域を活かす手だてを考える上での基本的な手順や考え方のポイントを示すとともに、参考となる地域活性化の実際の事例を準備する。

**ウ　ワークシート**

気付いたことや感じたことをまとめたりすることができるとともに、学習の振り返りにも活用できるワークシートを作成する。

**エ　確認テスト**

生徒の知識の定着と確認及びまとめに活用できる確認テストを作成する。

### (3)　本指導資料集活用による期待される効果

最新のデータを、資料や教材に盛り込んだり、直接、聞くことが困難な地域の方にインタビューをした動画を提示することにより、利根沼田地域の実情を踏まえた授業が可能となる。

また、教師の一方的な説明だけではなく、少人数のグループで意見を出し合いながら、学習を進めていく形態の授業展開例により、生徒は、いろいろな意見を聞くことができ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

## 2　指導資料集の構成

本指導資料集は、Ｗｅｂ形式で作成し、指導計画と指導資料で、図３のとおり構成されている。

なお、Ｗｅｂ形式としたのは、静止画や動画などの提示用教材を収録したり、授業展開例やワークシート、確認テストなどをワープロ形式のディジタルデータとして収録して、生徒の実態に応じて、改編できるようにしたりするためである。

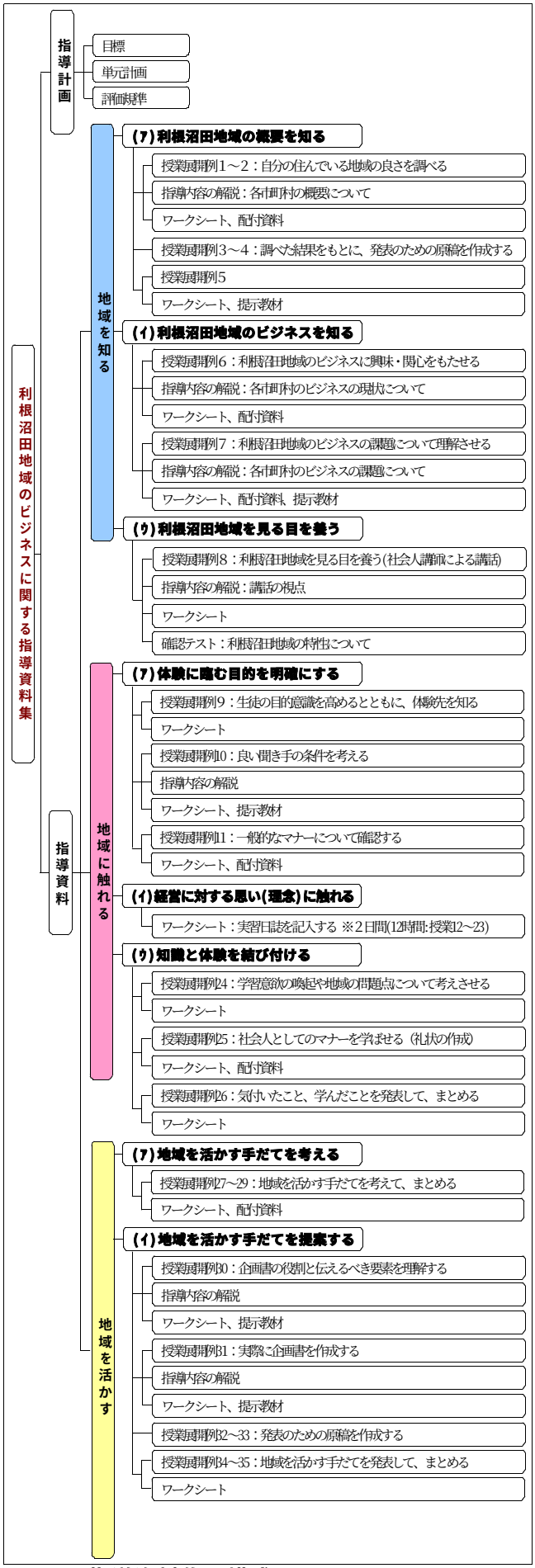



**図３　指導資料集の構成**

**(1)　指導計画**

指導する教師の共通理解を図るために、「第７章利根沼田地域のビジネス」の指導目標を掲載するとともに、それに基づき作成した単元計画、評価規準を掲載する。

**(2)　指導資料**

**ア　「地域を知る」**

**(ｱ)　利根沼田地域の概要を知る**

身近であるがゆえ、見落としがちな利根沼田地域のよさ、強みを再認識・再発見できるようにする。

そのために、利根沼田地域の各市町村ごとのグループに分かれ、それぞれの地域の特色を利根沼田地域以外の人々にＰＲするとすれば、何をＰＲできるのかを考えられるようにする。そこで、自分たちの住んでいる地域の魅力を改めて考え、グループで話し合った地域のＰＲをクラスで発表して、ワークシートにまとめ、利根沼田地域全体の特色を知るという授業展開例を作成する。

指導内容の解説として、利根沼田地域の現状や課題を認識する上で、それぞれの地域でビジネスの核となっている沼田の「商店街」、みなかみ町の「温泉」、川場村の「道の駅」、昭和村の「農産物直売所」、片品村の「尾瀬」などについて、生徒に説明やコメントができるように、詳細な資料を用意する（図４）。

**図４　指導内容の解説（川場村の「道の駅」）**

提示用教材として、山岳、高原、湖沼、渓谷、温泉、スキー場などの観光地が地域に点在する様子が分かる図を準備する。

配付資料として、利根沼田地域の市役所、町村役場、商工会及び観光協会などが、どのように地域の特色をとらえているのか、また、どのように地域を宣伝しているのかが分かる資料を準備する。

**(ｲ)　利根沼田地域のビジネスを知る**

利根沼田地域の自然そのものが観光客をもたらし、それに付随した関連施設に経済効果を及ぼしていることを理解させ、利根沼田地域のビジネスに興味・関心をもつことができるようにする。

そのために、利根沼田地域に観光客が訪れる理由を個人で考えて、グループで話し合い、その結果を基にクラスで発表できるようにする。それを通して、利根沼田地域のビジネスに興味・関心がもてるような授業展開例を作成する。

そこで、利根沼田地域に訪れる観光客入込数やその消費総額を示し、利根沼田地域には、非常に多くの観光客が訪れていて、魅力ある地域であることが分かるようにする。また、「利根沼田地域へ訪れる観光客入込数の推移や日帰り宿泊別の割合」の表を用意し、近年、観光客入込数が減少している原因についても考えることができるようにする。

指導内容の解説には、自分たちが旅行をするときのことを例に挙げ、交通費、宿泊費、食事代、各種施設の入場料、土産物代など、様々な分野に支出していることを掲載する。また、「利根沼田地域に訪れる観光客入込数の推移やその消費総額」から、非常に多くの観光客が訪れているが、近年、観光客入込数が減少している原因についても掲載する。

提示用教材として、利根沼田地域の課題について、考えるきっかけとなるように、地元の観光協会の方に「地域の宿泊施設の今後の動向について」インタビューした動画を準備する。

配付資料として、「利根沼田地域へ訪れる観光客入込数の推移や日帰り宿泊別の割合」の表を準備する。

**(ｳ)　利根沼田地域を見る目を養う**

多様な角度から利根沼田地域を見る目を養うことができるように、地域で活躍している方を社会人講師として招いて、講話をいただき、利根沼田地域のビジネスの将来への展望について、考えられるような授業展開例を作成する。

指導内容の解説には、講話の視点として、以下の三つの内容について掲載する。

第一に、利根沼田地域は、首都圏からのアクセスに恵まれていて、昨今の主流である低価格で居住地から近距離の観光地を短期間で訪問するというメリットを享受できる場所にあることである。

第二に、価値観やレジャーの多様化といった状

況から、従来どおりの観光では人々は満足できなくなっていて、人々のニーズに対応したきめ細かいサービスやメニューの提示が求められると同時に、それを積極的に発信していくことが必要であることである。

第三に、このような人々の観光へのニーズの変化や余暇の増大は、新しい形態での観光を生み出し、特に、農作業や森林ボランティアなどといった「体験型」あるいは「時間消費型」の観光を求める傾向が強くなっていることである。

**イ　「地域に触れる」**

**(ｱ)　体験に臨む目的を明確にする**

事業所での体験を行うに当たり、単に、勤労観や職業観を身に付けるだけで終わることがないように、「地域を知る」の学習で、興味・関心をもった地域のビジネスや発見した課題などを整理して、事業所での体験に臨む目的を明確にすることができるようにする。

そのために、受入事業所で何を学びたいのか、また、何を知りたいのかを考えて、整理し、受入事業所の下調べなども行う。また、実習とはいえ、一人の社会人として扱われるので一般的なマナーの確認も行い、机上の話だけでなく、言葉遣いや所作などの実習も入れた授業展開例も作成する。

ワークシートでは、それらを整理し、実習の際に活用できるように必要な言葉遣いなどをまとめられるようにもする。

**(ｲ)　経営に対する思い（理念）に触れる**

事業所での体験を通して、地域社会への理解を促進し、経営者の生き様や経営に対する思い（理念）に触れ、企業家精神を学ぶ。

そのために、事業所での体験を記録できるワークシートを用意する。そこには、その日の体験内容、自己評価、振り返り、次の日の目標などを記入する欄を設ける。

**(ｳ)　知識と体験を結び付ける**

いろいろな経営者の考えや経験を知り、今まで学んできた知識と事業所での体験を結び付ける。

そのために、体験期間中に記録したワークシートを基に、事業所での体験を通して得られたことや、それをどう活かしたいかなど、今後の高校生活の在り方を含めたまとめをすることができるようにする。それを基にして、報告会を行い、地域のビジネスの課題を解決する手がかりを見付けるという授業展開例を作成する。

ワークシートには、事業所での体験を通して感じたこと、気付いたこと、学んだこと及びこれから勉強したいことなどを整理できるようにする。

**ウ　「地域を活かす」**

**(ｱ)　地域を活かす手だてを考える**

「地域を知る」で学んだ知識や「地域に触れる」での体験を通して、利根沼田地域のビジネスの課題を広く知り、また、その課題を解決する手がかりを基に、利根沼田地域を活かす手だてを考えることができるようにする。

そのために、まず個人で、利根沼田地域の現状や課題を踏まえて、地域を活かす手だてについて考えることができるようにする。そして、グループで、自分たちに何ができるのか、何をしたいのかについて、話し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるような授業展開例を作成する。

指導内容の解説には、地域を活かす手だてを考える視点として、図５のとおり、社会の動き・次代の予測・利根沼田地域の強み、弱みについて掲載する。

**図５　指導内容の解説（地域を活かす手だてを考える視点）**

また、地域を訪れる人たちが気持ちよくいられる工夫、少しでも長くその地域にいたいと思えるような工夫、もう一度、訪れたくなるような工夫を実際の事例を基に考えられるようにすること、さらに、事業所で学んだいろいろな経営者の考えや経験及び事業所での体験などを通して、地域を活かすための商品開発や起業などについても考えられるようにするということを掲載する。

配付資料として、地域を活かす手だてを考える際に、参考となるように、地域活性化の実際の事例を準備する。

**(ｲ)　地域を活かす手だてを提案する**

利根沼田地域の抱えている様々なビジネスの課題を、どのように解決していけばよいか、高校生

の目から見た提案を、学校外の人々に行い、評価してもらうことにより、それを社会的価値のあるものにする。そこで、自分の提案を他人に分かりやすく伝えるために、発表内容を整理し、その構成を明確にし、地域へ発信・発表する授業展開例を作成する。

自分の考えを広げたり、深めたりすることができるように、ワークシートには、他人が提案した地域を活かす手だての発表から、気付いたり、分かったりしたことをまとめられるようにする。

## Ⅳ　実践

### 1　実践の計画

作成した本指導資料集の有効性を検証するために、置籍校の商業科教師に本指導資料集を活用してもらい、アンケートを実施し、意見や感想を収集した。また、置籍校の商業科教師とのティームティーチングによる次のような授業実践を行い、改善・充実のための意見や感想を収集した。

**(1)　授業実践**

| | |
|---|---|
| 対象 | 商業科３年　「課題研究」で、マーケティング分野を選択している生徒<br>※まだ、実施されていない科目であるため、利根沼田地域のビジネスに関する授業を特設して行った。 |
| 単元の目標 | 利根沼田地域のビジネスの現状や課題に気付き、地域を理解させる。 |
| 指導期間・時数 | 平成19年11月１日、５日、７日の３時間 |
| 授業者 | 商業科教師　長期研修員 |

**(2)　授業計画**（単元「地域を知る」（８時間）のうちの３時間分）

| 時間 | 指導項目 | 本時のねらい・評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | 利根沼田地域のよさ、強み | （本時のねらい）<br>・利根沼田地域のよさ、強みを再認識・再発見する。 |
| | | （評価規準）[知識・理解]<br>・利根沼田地域は、日本有数の観光地であるということを理解している。 |
| 2 | 利根沼田地域のビジネスの現状 | （本時のねらい）<br>・利根沼田地域のビジネスについて、興味・関心をもつ。 |
| | | （評価規準）[関心・意欲・態度]<br>・利根沼田地域の観光を主としたビジネスの魅力について、興味・関心をもっている。 |
| 3 | 利根沼田地域のビジネスの課題 | （本時のねらい）<br>・利根沼田地域のビジネスの課題について、考えることができる。 |
| | | （評価規準）[思考・判断]<br>・利根沼田地域のビジネスの観光客数が減少しているなどの課題について、考えている。 |

**(3)　検証計画**

| 検証の観点 | 検証の方法 |
|---|---|
| （商業科教師）<br>本指導資料集が、利根沼田地域のビジネスの指導に関して、指導する教師の共通理解が図れるものであるか。また、指導に必要な資料や教材はそなわっているか。<br>○三つの柱に基づく35時間分の指導内容及び授業展開例は、科目の目標に即したものになっているか。<br>○授業展開例は生徒の実態を考慮したものになっているか。<br>○指導内容の解説は十分か。<br>○教材や資料は十分か。 | 本指導資料集を活用してもらい、アンケートを実施し、意見や感想を収集する。 |
| （授業を実施した商業科教師）<br>授業で活用できる指導資料集であるかどうか。<br>○授業展開例は授業を構想する上で役立ったか。<br>○指導内容の解説は、教材研究に役立ったか。<br>○教材や資料は、授業を行う上で役立ったか。 | 本指導資料集を活用して授業を実施した商業科教師から意見や感想を収集する。 |

### 2　実践の内容

作成した授業展開例を基にして「利根沼田地域のビジネスの現状や課題に気付き、地域を理解させる」という目標で、３時間の授業を行った。

**(1)　利根沼田地域のよさ、強み**

利根沼田地域のよさ、強みを再認識・再発見させるために、利根沼田地域以外の人々に対して、地域のＰＲを個人で考え、各自のワークシートに記入した。グループで発表し、お互いの考えた地域のＰＲを出し合った。その際、自分が気付かなかった意見を、色を変えて自分のワークシートに追記することを指示し、グループ内では全員が発表し、お互いの考えを尊重するようにまとめさせた。さらに、グループごとにまとめたＰＲを発表し、利根沼田地域には、他の地域の人々にＰＲできる魅力がたくさんあることを再認識した。

| 学習活動 | 教師の支援及び留意点 | 指導資料集の活用場面 | 生徒の様子・反応 |
|---|---|---|---|
| ○個人で利根沼田地域のＰＲを考える。<br><br>○個人で考えた利根沼田地域のＰＲをグループで発表する。<br><br>○グループごとにクラスで発表する。<br><br>○ワークシートに記入する。 | ○ワークシートに記入させる。<br><br>○自分が気付かなかった意見を、色を変えて、自分のワークシートに追記することを指示する。<br>○グループ内では全員に発表する機会を与え、お互いの考えを尊重するようにまとめさせる。<br><br>○自分が気付かなかった意見を、色を変えて、自分のワークシートに追記することを指示し、他のグループの発表にも耳を傾けるようにさせる。<br><br>○利根沼田地域が自然豊かなことや主な観光地の位置について確認させる。<br>【提示教材】<br>・名所などにマウスポインタを合わせると写真が表示され、クリックすると観光客入込数が表示れる。 | <br>【ワークシート】<br> <br>【提示教材】 | ・話し合うことによって、知らないことが分かった。<br>・グループで話し合うのはいろいろな意見が聞けてよかった。<br>・自分で考えたことをグループの中で発表するというのはよかったと思う。様々な考えがまとめられてよかった。<br><br>・何処に何があるのかが分かった。<br>・提示教材を見ながら先生の話を説明を聞くことで分かりやすい。 |

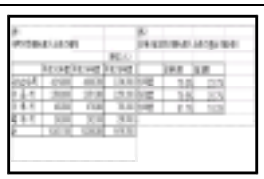
**(2)　利根沼田地域のビジネスの現状**

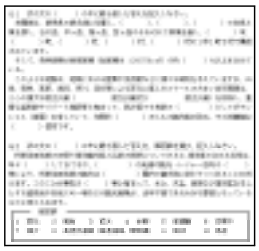
利根沼田地域のビジネスについて、興味・関心をもたせるため、「利根沼田地域は、年間の観光客入込数が約1,000万人、その消費総額が約300億円であること」を配付資料で示した。そして、インターネットや各市町村の総合計画、観光パンフレットを基に作成した資料を配付して、年間の観光客入込数が多い理由について調べさせた。

| 学習活動 | 教師の支援及び留意点 | 指導資料集の活用場面 | 生徒の様子・反応 |
|---|---|---|---|
| ○個人で、どの市町村が一番、観光客が訪れるか考え、その理由も記入する。<br><br>○クラスで発表し合う。<br><br>○ワークシートに記入する。 | ○考えさせる資料として、利根沼田地域の観光地などの情報を与える。<br><br>○利根沼田地域の自然のよさ、強みについて確認させる。<br><br>○気付いたこと、新しく学んだことなどをワークシートに記入させる。 | <br>【ワークシート】<br> <br>【配付資料】 | <br>【配付資料やインターネットを活用して調べている様子】<br>・利根沼田地域の観光名所が、細かく載っていて、分かりやすかった。<br>・地域ごとに分かりやすく書いてあってよかった。 |

**(3)　利根沼田地域のビジネスの課題**

利根沼田地域のビジネスの課題について考えさせるため、市町村別の観光客入込数の推移や日帰り宿泊客の割合を示した。次に、利根沼田地域の課題について考えさせ、クラスで発表し合った。また、観光協会の方のインタビュー動画を提示し、地域の課題について、考えるきっかけとした。最後に、まとめとして利根沼田地域についての知識の定着を図るために確認テストを行ったり、３時間の授業の振り返りも記入させたりした。

| 学習活動 | 教師の支援及び留意点 | 指導資料集の活用場面 | 生徒の様子・反応 |
|---|---|---|---|
| ○ワークシートに記入する。<br><br>○クラスで発表し合う。<br><br>○インタビュー動画を見て、気付いたこと、分かったことを記入する。 | ○市町村別の観光客入込数の推移や日帰り宿泊客の割合を示すことにより、利根沼田地域の置かれている現状や抱えている課題について考えさせる。<br><br>【提示教材】<br>○片品村の特色についてのインタビュー |  <br>【配付教材】 | ・専門の人の話を聞くことで理解できる部分が多くあった。<br>・資料やインタビューなどを実際に自分で見たり聞いたりすることで、分かりやすいし、頭にも入ると思う。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ワークシートに記入する。<br><br>○確認テストを行う。 | ※みなかみ町と片品村は同じように温泉やスキー場があるがその状況は、違うということを認識させる。<br>○気付いたこと、新しく学んだことなどをワークシートに記入させる。<br>○利根沼田地域の地域資源について、知識の定着を図る。 |  <br>【確認テスト】 | ・理解が深まった。<br>・最後のまとめとして、とてもよくまとめられた。頭に残った。<br>・自分がどのくらい知識が付いたか、分かった。 |

### 3　結果と考察

#### (1)　指導する教師の共通理解について

本指導資料集について、商業科教師にアンケート調査を行い、意見や感想を収集した。掲載内容についての質問では、図６に示すように、どの質問に対しても85%以上の教師が「そう思う」「やや思う」と回答した。

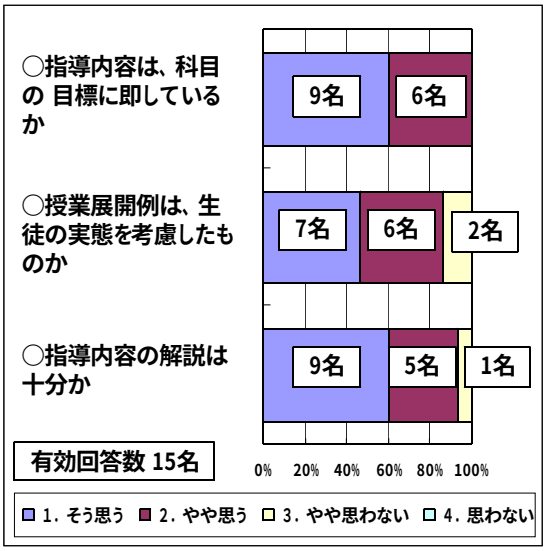



**図６　指導資料集の掲載内容について**

このうち、「授業展開例は、生徒の実態を考慮したものか」については、約15%の教師が「やや思わない」「思わない」と回答したが、後に聞き取りをしたところ「生徒が地域についてあまり知らないという点」を懸念してのことであることが分かった。これは、地域を知るための授業展開例や教材などをより多く盛り込むことによって、解消できると考えられる。

このことから、本指導資料集に掲載した指導内容は、科目の目標に即しており、指導内容の解説も十分であると考えられる。

また、次の表１のような意見や感想が出された。

**表１　本指導資料集を活用した商業科教師からの意見や感想（その１）**

| |
|---|
| ・授業のイメージがわいた。<br>・系統的によくまとまっていると思う。<br>・特色を知り、実際に働くことにより、地域を活かす手だてを見付けることができる。<br>・授業展開例によって、何をどう指導すればよいかが分かった。<br>・教師が促す授業展開例と生徒が考えるものとのバランスがよいと思うので、生徒は地域の特色などについて、しっかり理解できると思う。<br>・具体的なデータもきちんとあり、図も分かりやすい。そのため、利根沼田地域のビジネスについて、よく知ることができた。<br>・指導内容の解説は丁寧に解説されており、十分である。 |

本指導資料集を商業科教師に活用してもらったことにより、「授業のイメージがわいた」「指導内容の解説は丁寧に解説されており、十分である」などといった利根沼田地域のビジネスについて、何をどのように指導すればよいかという点において、指導する教師の共通理解につながった。

#### (2)　指導に必要な資料や教材について

商業科教師に「本指導資料集に掲載した資料や教材が十分か」とアンケート調査を行ったところ、すべての教師が「そう思う」「やや思う」と回答した。不足していると回答した教師はいなかった。

また、表２のような意見や感想が出された。

**表２　本指導資料集を活用した商業科教師からの意見や感想（その２）**

| |
|---|
| ・ワークシートも使いやすく、授業もしやすくなっていると思う。<br>・資料やワークシートが用意されており、教材や資料などは、十分であると思う。<br>・多くの資料から取捨選択して行うことが可能である。 |

これらの結果から、本指導資料集によって、指導に必要な資料や教材の準備が整ったと考えられる。

### (3) 指導資料集の有効性について

ティームティーチングによる授業に協力していただいた教師からは、教材研究や授業実践において、本指導資料集は、「ワークシート形式になっていて、生徒が取り組みやすく、動画を使用するなど、詳しい解説ができた。」という感想があった。

また、授業実践前のアンケートでは、生徒の利根沼田地域に対する見方・考え方は、「自然が豊か」「尾瀬や温泉、スキー場がある」「観光が盛んである」「こんにゃく、焼きまんじゅうが特産品」といったような漠然としたものであったが、３時間の授業実践後の振り返りでは、自分の住んでいる地域でありながら、意外と知らないことが多いことに気付いたり、地域の現状や課題に気付いたりする生徒が見られた（表３）。

**表3　生徒の授業実践後の地域に対する考え方（振り返りから）**

| |
|---|
| ・自分の住んでいる地域のことだから、あまり興味がなかったが、他の地域の人からすると観光したい場所になっているなど、見えていないことが分かった。<br>・利根沼田地域は、よい所だと、詳しく知れた。<br>・自分の知らなかったことや間違えて覚えていたことを知ることができた。自分の住んでいる地域に興味をもつことができた。<br>・気付かなかったことを知ることができた。これをきっかけにして自分たちの住んでいる町をもっと知ろう、大切にしようと思った。<br>・正直、利根沼田地域にこんなにも観光客が来ていることを知らなかった。個人客が増えているので、温泉など、もっと発展させられたらよいと思った。<br>・観光地として、自然が多く、そのお陰で多くの客を得ていることが分かった。また、もう少し自然を利用すれば、何かよいものを作れると思った。<br>・今の利根沼田地域でいかに客のニーズをとらえるかが重要であると思う。 |

このような生徒の利根沼田地域に対する見方・考え方の変化は、作成した本指導資料集の授業展開例を基に、少人数のグループで意見を出し合いながら、学習を進めていく形態の授業を行ったためであると考えられる。生徒はこうした活動を通して、利根沼田地域のイメージは、人それぞれで受け取り方が異なることを知ったり、他の人の考えを聞いたりしながら、広く利根沼田地域のビジネスの現状や課題について知ることができたと考えられる。

また、提示用教材や配付資料により、利根沼田地域のビジネスに対して興味・関心を引き出し、分かりやすく、理解を助けたと考えられる。

このようなことから、本指導資料集は、「利根沼田地域のビジネス」の単元の授業において有効的に活用できるものであると考えられる。

## Ⅴ　成果と今後の課題

### 1　成果

○　本指導資料集の活用を通して、利根沼田地域のビジネスについて、具体的な指導内容についてのイメージが共有化され、指導する教師の共通理解につながった。

○　地域に密着した情報を基に作成したことにより、指導に活用できる資料や教材を準備することができた。

○　最新のデータを、資料や教材に盛り込んだり、地域の方にインタビューをした動画を提示したりしたことにより、利根沼田地域の実情を踏まえた授業ができた。

### 2　課題

○　できるだけ新しいデータを掲載することが重要となるので、市役所、町村役場、商工会、観光協会及び事業所などと連携を密に取り、随時改訂を行う必要がある。

○　生徒が実際にビジネスの現場に触れ、経営者などの考えを知るために、地域の事業所にその趣旨を理解してもらうとともに、受入体制を維持していく必要がある。

＜主な参考・引用文献・ＵＲＬ＞

・『ジョブカフェぐんま』　　財団法人群馬県勤労福祉センター（平成18年３月）
・『利根沼田新ふるさと市町村圏計画　後期基本計画』　　利根沼田広域市町村圏振興整備組合(平成18年７月)
・経済産業省近畿経済産業局（http://www.kansai.meti.go.jp/2sangyokikaku/koyou/H18manual.html）平成20年３月17日
・静岡県学校間情報ネットワーク（http://www.shizuoka-c.ed.jp/）平成20年３月17日
・栃木県総合教育センター（http://hiroba.tochigi-c.ed.jp/）平成20年３月17日
・『総合計画』　　利根沼田地域の各市町村（平成17年３月から平成19年３月）